

## 基本方針4 子どもたちの豊かでたくましい人間性をはぐくみます

### 【基本的方向】

- ① 小・中・高一貫したキャリア教育を推進するとともに、地域と連携した体験活動や読書活動を充実し、粘り強くチャレンジする力をはぐくむ教育を充実します。
- ② 歴史や芸術・文化・学術等に関する教育を推進し、郷土への誇りや伝統・文化を尊重する心をはぐくみます。
- ③ 民主主義をはじめとした社会のしくみについての教育を推進し、社会の一員として参画し貢献する意識や公共の精神を醸成します。
- ④ 社会のルールを守り、違いを認め合い人を思いやる豊かな人間性をはぐくむ人権教育・道徳教育を推進します。
- ⑤ 子ども自身の問題解決能力をはぐくむとともに、関係機関との連携や支援チームの活用等により、いじめや不登校等の生徒指導上の課題解決に向けた対応を強化します。
- ⑥ 教員研修の実施など校内の指導体制を強化し、体罰等の防止に取り組みます。

### 【主な取組み】

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
①	キャリア教育の推進 （児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育プログラムの推進 <参考資料 P186>）	公立小・中学校において、研修を通じて「大阪府キャリア教育プログラム」の周知・普及に努め、中学校区におけるキャリア教育全体指導計画の作成を促進した。
	キャリア教育の推進 （「志（こころざし）学」の実施 <参考資料 P187>）	府立高校においては、「志（こころざし）学」を実施するとともに、大阪府教育センター研究フォーラムにおいて、実践発表やパネルディスカッションを通じてその取組みの普及を図った。
	子どもの発達段階に応じた読書環境の充実 （大阪子ども読書活動推進ネットワークフォーラム <参考資料 P190>） （公立図書館と学校との合同研修 <参考資料 P190>）	第3次大阪府子ども読書活動推進計画を策定し、平成28年度から5年間の子どもの読書活動推進にかかる基本方針、目標、具体的な取組みを定めた。 また、読書の重要性についての理解を促進するため「大阪子ども読書活動推進ネットワークフォーラム」を開催するとともに、学校図書館の活性化や公立図書館における児童サービスの向上を図るための「公立図書館と学校との合同研修」、「児童サービス担当者連絡会」、ビブリオバトル（書評合戦）や読み聞かせに関する地区別研修及び大阪府中高生ビブリオバトル大会を実施した。

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
②	近現代史をはじめとした歴史に関する教育の実施 （＜参考資料 P191＞）	大阪府教育課程協議会において、近現代史をはじめとした歴史に関する授業の内容を周知した。
	歴史・文化にふれる機会の拡大 （府立博物館等の活用 ＜参考資料 P191＞）	弥生文化博物館や近つ飛鳥博物館等において府立高校への出前授業による広報活動を行うとともに、小・中学校の校外授業の受け入れや小・中学校の教員を対象とした研修を実施した。
③	民主主義など社会の仕組みに関する教育の推進 （＜参考資料 P193＞）	<p>小・中学校については、市町村教育委員会の指導主事研修会において、冊子「夢や志をはぐくむ教育」の活用を促した。また、実践事例集「民主主義など社会のしくみについての教育」をホームページに公開し、その活用を促した。</p> <p>府立高校については、大阪府教育課程協議会において、民主主義・社会の仕組みに関する授業実践の内容を周知した。また、大阪府教育センター研究フォーラムにおいて、公民科における政治への関心を高める授業について事例発表やパネルディスカッションを行った。国の副教材を十分に活用して、「政治的教養を育む教育」を各学校において推進するために、活用方法や指導上の留意点などを示した府独自のガイドラインを平成28年2月に作成し、各学校へ通知した。また、校長や教頭、公民科担当教員向け研修会を実施し、ガイドラインを周知した。</p>
④	道徳教育の推進（＜参考資料 P194＞）	<p>小・中学校については、道徳の時間の積極的な地域等への公開や道徳教育公開講座を通じた家庭・地域との連携の推進について、市町村教育委員会に指導・助言した。また、28市町106中学校区を推薦指定校区に指定し、道徳教育公開講座や道徳の授業づくり研修会の開催を推進した。</p> <p>府立高校については、各校が作成する道徳教育の全体計画に基づき、学校の教育活動全体を通じて道徳教育を推進することを周知した。</p>
	人権教育の推進（＜参考資料 P196～197＞）	<p>小・中学校については、市町村教育委員会と連携し、人権教育教材集・資料を活用した研修を実施するとともに、人権教育フォーラムを実施した。</p> <p>府立高校については、共同研究校26校、共同研究員・研究協力員184人の体制により、研究交流会議やテーマ別研修会等を開催した。</p>

基本的方向	具体的取組名（事業名）	実施内容
⑤	いじめ解決に向けた総合的な取組みの推進 （いじめ対策支援事業 <参考資料 P203>） （児童生徒支援総合対策事業 <参考資料 P203>） 中学校における生徒指導体制の強化 （生徒指導機能充実緊急支援事業 <参考資料 P206>）	いじめをはじめとする問題行動への対応として、市町村教育委員会に対して、府教育委員会作成の「5つのレベルに応じた問題行動への対応チャート」の積極的な活用を働きかけるとともに、162 中学校を対象として、生徒指導機能充実緊急支援事業を実施し生徒指導機能の強化を行った。 また、子どもの命にかかわる緊急かつ重篤な事案や、学校や市町村教育委員会だけでは解決が困難な事例に対し、支援チームを派遣した。 12月に、いじめ防止フォーラムを開催し、いじめ解決に向けた実践報告や講演を行った。
	児童・生徒等に対する学校相談体制の充実 （スクールカウンセラー配置事業 <参考資料 P204>） 福祉や警察など関係機関の連携による取組みの推進 （スクールソーシャルワーカー配置事業 <参考資料 P204>）	府内全中学校へスクールカウンセラーを配置し、児童・生徒の悩みや不安を受け止める確かな支援が行えるよう、「スクールカウンセラーと教員がともに取り組む問題行動解決力育成のためのブックレット」の活用も含め、教育相談体制の充実を図った。 市町村教育委員会（政令・中核市を除く）へスクールソーシャルワーカーを派遣し、児童生徒の環境改善に向けた福祉機関との連携の充実を推進した。
⑥	体罰等に関する相談体制の整備 （生徒アンケートの実施 <参考資料 P208>） （被害者救済システム運用事業 <参考資料 P208>）	府立学校においてアンケートを2回実施し、体罰の早期発見に努めた。また、「被害者救済システム」を引き続き設置、活用した。

【指標の点検結果】 ※全国学力・学習状況調査に係る指標については、当該年度の状況が次年度の結果に反映されるため、「計画策定時の現状値」及び「実績値」には次年度の結果を記載

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績値 (計画策定時)	H27年度実績値	点検結果
○指標 24 「将来の夢や目標を持っている」児童・生徒の割合	向上させる	小6 : 86.3% (全国 : 87.7%) 中3 : 71.1% (全国 : 73.5%)	小6 : 83.1% (全国 : 85.3%) 中3 : 69.4% (全国 : 71.1%)  (H26年度実績 小6 : 84.5% (全国 : 86.5%) 中3 : 70.0% (全国 : 71.7%))	△ いずれも計画策定時の実績を下回った。
○指標 25 「ものごとを最後までやりとげたことがある」児童・生徒の割合	向上させる	小6 : 93.6% (全国 : 94.3%) 中3 : 92.0% (全国 : 93.7%)	小6 : 93.9% (全国 : 94.4%) 中3 : 93.5% (全国 : 94.3%)  (H26年度実績 小6 : 93.7% (全国 : 94.5%) 中3 : 90.3% (全国 : 94.2%))	○ 小6については計画策定時の実績のほぼ横ばいとなっているが、中3については上回った。
○指標 26 「読書が好き」な児童・生徒の割合	向上させる (全国水準をめざす)	小6 : 45.8% (全国 : 47.8%) 中3 : 38.0% (全国 : 46.2%)	小6 : 46.8% (全国 : 49.3%) 中3 : 39.2% (全国 : 46.5%)  (H26年度実績 小6 : 47.3% (全国 : 48.9%) 中3 : 37.9% (全国 : 44.9%))	△ 中3については計画策定時に比べ、実績を上回り全国平均との差が縮小したが、小6については計画策定時に比べ、実績を上回っているが、全国との差は拡大した。
○指標 27 「自分には良いところがある」と回答した児童・生徒の割合	向上させる (全国水準をめざす)	小6 : 73.0% (全国 : 75.7%) 中3 : 60.2% (全国 : 66.4%)	小6 : 72.9% (全国 : 76.3%) 中3 : 64.9% (全国 : 69.3%)  (H26年度実績 小6 : 73.3% (全国 : 76.4%) 中3 : 63.5% (全国 : 68.1%))	△ 小6については、全国平均との差は拡大した。 中3については、計画策定時の実績を上回り、全国平均との差も縮小した。

指標	目標値 (H29 年度)	H24 年度実績値 (計画策定時)	H27 年度実績値	点検結果	
○指標 28 「人の気持ちがわかる人間 になりたい」と回答した 児童・生徒の割合	向上させる	小6 : 91.7% (全国 : 93.0%) 中3 : 92.5% (全国 : 94.2%)	—  ※平成 28 年度全国学力・学習状 況調査児童生徒質問紙から当該 質問事項が削除	—	—
○指標 29 「学校のきまりを守って いる」児童・生徒の割合	向上させる	小6 : 85.3% (全国 : 90.6%) 中3 : 89.1% (全国 : 92.5%)	小6 : 86.6% (全国 : 91.5%) 中3 : 92.8% (全国 : 94.7%)  ( H26 年度実績 小6 : 85.7% (全国 : 91.1%) 中3 : 92.8% (全国 : 94.4%) )	○	いずれも計画策定時の実績 を上回った。
○指標 30 「近所の人に会ったときは、 あいさつをしている」児童・ 生徒の割合	90%以上をめざす	小6 : 87.5% (全国 : 91.8%) 中3 : 84.4% (全国 : 87.1%)	—  ※平成 26 年度全国学力・学習状 況調査児童生徒質問紙から当該 質問事項が削除	—	—
○指標 31 「高校・高等部での学習を通 して『自分を大切にする』気 持ちが高まった」と回答した 府立学校生の割合	向上させる	57.0%	60.5%  [H26 年度実績 60.5%]	○	平成 27 年度実績は、計画策 定時の実績を 3.5 ポイント 上回った。
○指標 32 「高校・高等部での学習を通 して『人間関係』の大切さを 学んだ」と回答した府立学校 生の割合	向上させる	80.6%	82.4%  [H26 年度実績 84.3%]	○	平成 27 年度実績は、計画策 定時の実績を 1.8 ポイント 上回った。
○指標 33 「悩みや心配ごとがあると き、相談する相手がいない」 と回答した府立学校生の 割合	減少させる	9.2%	8.0%  [H26 年度実績 7.9%]	○	平成 27 年度実績は、計画策 定時の実績より 1.2 ポイン ト改善した。

指標	目標値 (H29年度)	H24年度実績値 (計画策定時)	H27年度実績値	点検結果
○指標 34 暴力行為の発生件数の 千人率	全国水準以下をめざす	小：2.4件（全国：1.2件） 中：29.9件（全国：11.3件）	小：6.1件（全国：2.6件） 中：28.2件（全国：10.0件）  〔 H26年度実績 小：4.3件（全国：1.7件） 中：32.4件（全国：10.7件） 〕	△  平成27年度の実績は、中学校では改善が見られるものの小・中学校ともに全国平均との差が依然として大きい。
○指標 35 不登校児童・生徒数の 千人率	全国水準以下をめざす	小：3.3人（全国：3.2人） 中：31.1人（全国：27.0人）	小：4.6人（全国：4.3人） 中：34.0人（全国：29.5人）  〔 H26年度実績 小：4.3人（全国：4.0人） 中：33.7人（全国：28.9人） 〕	△  平成27年度の実績は、小・中学校ともに全国平均との差は、同水準で推移しており改善に至っていない。
○指標 36 いじめの解消率	100%をめざす	小：89.6%（全国：90.9%） 中：86.2%（全国：86.7%）	小：91.7%（全国：90.4%） 中：89.0%（全国：85.9%）  〔 H26年度実績 小：82.6%（全国：89.9%） 中：82.1%（全国：86.4%） 〕	○  平成27年度実績は、小・中学校ともに改善し、全国平均を上回った。

## 【自己評価】

- ① **小・中・高一貫したキャリア教育を推進するとともに、地域と連携した体験活動や読書活動を充実し、粘り強くチャレンジする力をはぐくむ教育を充実します。**
  - ・粘り強くチャレンジする力の育成については、地域と連携した体験活動などに取り組み、キャリア教育をより一層推進してきた。「将来の夢や目標を持っている」児童・生徒の割合は、計画策定時に比べて下回っており、「ものごとを最後までやりとげたことがある」児童の割合は計画策定時に比べてほぼ横ばいであるが、生徒については上回っている。今後も、発達段階に応じたキャリア教育の充実に一層努めていく。
  - ・第3次大阪府子ども読書活動推進計画を策定するとともに、子ども読書の重要性についての理解を促進するためのフォーラムの開催や、図書館司書、学校関係者、保護者、ボランティア等に対する各種研修の実施を行ったほか、本と出合うきっかけづくりとなるビブリオバトル（書評合戦）の普及に努めた。また、小・中学校における学校図書館の機能充実に向けては、担当指導主事会を通じて、市町村に対して優れた取組みを紹介するなどの支援を行った。
  - ・「読書が好き」と回答した児童・生徒の割合は、計画策定時に比べ増加しているものの、全国平均を依然下回っていることから、第3次計画に基づき、子どもの読書に関わる公民の機関・団体等と連携しながら、乳幼児・児童への読み聞かせや中高生が読みたい本と出合う機会の拡大等を進めるとともに、子ども読書活動推進計画の策定等について市町村への働きかけを進めていく。
- ② **歴史や芸術・文化・学術等に関する教育を推進し、郷土への誇りや伝統・文化を尊重する心をはぐくみます。**
  - ・近現代史をはじめとした歴史等に関する教育については、全校を対象とした教育課程協議会において近現代史をはじめとした授業内容の周知を行うなど、事業目標に沿って進捗している。弥生文化博物館・近つ飛鳥博物館を利用した小・中学生数は、平成27年度3.4万人に達し、目標値3万人を大幅に超えた。子どもたちが歴史・文化等にふれる機会を拡大させるため、今後とも継続して出前授業による広報活動や、小・中学校の教員を対象とした研修の実施などを進めていく。
- ③ **民主主義をはじめとした社会のしくみについての教育を推進し、社会の一員として参画し貢献する意識や公共の精神を醸成します。**
  - ・「夢や志をはぐくむ教育」（小・中学校）や「志（こころざし）学」（高校）を実施するとともに、民主主義など社会の仕組みに関する授業の実践を府立高校へ周知した。また、実践事例集「民主主義など社会のしくみについての教育」をホームページに掲載し、その活用を促した。今後とも、教育センター研究フォーラムにおける実践的な授業の報告の実施などを通じてその充実に努めていく。

## ④ 社会のルールを守り、違いを認め合い人を思いやる豊かな人間性をはぐくむ人権教育・道徳教育を推進します。

- ・小・中学校については、市町村教育委員会と連携した人権教育研修を実施するとともに、家庭・地域と連携した道徳教育をより一層推進してきた。これらの成果として、「自分には良いところがある」と回答した児童の割合については全国平均との差が拡大したものの、生徒については縮小した。また、「学校のきまりを守っている」と回答した児童・生徒の割合は計画策定時の実績を上回った。
- ・府立高校においては、人権教育研修など各種会議を開催し、その成果を取りまとめるとともに、各学校で作成した道徳教育の全体計画に基づき道徳教育を推進した。これらの成果として、「高校・高等部での学習を通して『自分を大切に作る』気持ちが高まった」、「高校・高等部での学習を通して『人間関係』の大切さを学んだ」と回答した府立学校生の割合はいずれも向上し、「悩みや心配ごとがあるとき、相談する相手がいない」と回答した府立学校生の割合も計画策定時の実績より、改善している。

## ⑤ 子ども自身の問題解決能力をはぐくむとともに、関係機関との連携や支援チームの活用等により、いじめや不登校等の生徒指導上の課題解決に向けた対応を強化します。

- ・いじめや不登校等の生徒指導上の課題解決に向けた取組みを行った結果、暴力行為の発生件数の千人率、不登校児童・生徒数の千人率は、全国と比較して依然として厳しい状況にあるが、中学校の暴力行為については改善の兆しがみられた。また、いじめの解消率については、小・中学校ともに向上し全国平均を上回った。
- ・子ども達の問題行動の要因は様々であるが、友達との人間関係や学習面での不安、親子関係など家庭生活への不満など、生徒に鬱積したものが暴力行為等の生徒指導上の課題として表面化していると考えられる。一方、学校の課題として、教員の急速な世代交代が進む中、生徒指導のノウハウの継承等に課題が見られ、問題行動発生時における指導が十分に徹底できない状況にある。このことが問題行動の深刻化に結びつき、暴力行為等の増加の原因になっていると考えられる。
- ・こうした状況を踏まえ、平成 27年度から、生徒指導機能充実緊急支援事業を実施し、非常勤講師の配置により生徒指導主事が生徒指導体制の中心として活動できるようにすることを通じて、暴力行為を含む問題行動を減らす取組みを進めた。また、いじめや暴力行為等、問題行動のレベルにより責任の所在を明確にした対応が行えるよう、「5つのレベルに応じた問題行動への対応チャート」について、市町村教育委員会に対し積極的な活用を働きかけた。さらに、学校での早期発見・早期対応を行うため、いじめアンケートの複数回実施や相談窓口の周知徹底を指導した。また、スクールソーシャルワーカーの派遣時間数の増加、スクールカウンセラーの配置などによる相談の拡充など、児童・生徒の相談体制を充実させた。

## ⑥ 教員研修の実施など校内の指導体制を強化し、体罰等の防止に取り組みます。

- ・全ての府立高校において生徒アンケートを2回実施し、体罰の早期発見に努めるとともに、長期休業前の通知等を通じて、相談窓口の周知を図った。このような取組みにより、体罰の発見につながった事象が報告されている。



## 【評価審議会における審議結果】

○府の点検及び評価結果は概ね妥当である。

### 【基本的方向①について】

- ・キャリア教育の推進について、小・中・高等学校の連携が最も重要である。各中学校区では、小・中学校が連携して取り組みが進んでいるが、さらに、高校での進路指導の取り組みなどを小・中学校の教員が学んでいくことも必要であり、例えば、教育センターの研究フォーラムなどにより、小・中・高等学校を見通したキャリア教育の研修の機会を設けるなど、小・中・高で一貫した取り組みを進めてほしい。
- ・読書環境の充実するための取り組みとして、ビブリオバトル（書評合戦）は有効と考える。本を深く理解して読む、また読んだ本を他者に説明するということはとても重要であり、本の紹介を聞いた人がさらに本を読みたくなるように取り組みをさらに進めてほしい。
- ・小学校の低学年と比べ、学年が上がるにつれて読書をする人が減ってくるのは、読み書きに困難さを感じている子どもも含まれると考えられる。音声で読み上げるオーディオブックやLLブックなどは、読むことが困難である子どもたちが親しみを持てるものであり、こうした設備のある公立図書館などを含め、小・中学校に紹介すべき。
- ・指標26「『読書が好き』な児童・生徒の割合」について、国語の学力調査結果と関係があると考えられる。小学校段階では、おもしろいと思える本に出合うかが、非常に重要。一旦、本がおもしろいと思うと読書に関心を持つ可能性があるため、例えば、地域で学校に貢献したい人を読み聞かせに活用するなど、地域人材を活用した効果的な取り組みを進めてほしい。

### 【基本的方向③について】

- ・「民主主義など社会の仕組みに関する教育の推進（具体的取組76）」について、「夢や志をはぐくむ教育」や「志（こころざし）学」は小中学校から高等学校まで指導事例も含めた教材が提供されており、評価できる。これから子どもたちが夢や志を持って進学や社会に出ていくうえで重要な取り組みであり、ぜひ教材の一層の充実をしてもらいたい。

### 【基本的方向④について】

- ・指標5「『自分には良いところがある』と回答した児童・生徒の割合」について、激動する社会の中で生き抜いていくための力をいかにつけるかということが重要である。特に、自尊感情を高めるには、自分の強いところだけでなく弱いところも含めて、自分が好きであるという感情を育てることである。自分がこの世の中の唯一の存在であるというように、自分自身を良いと思えるような取り組みを進めるべき。

## 【基本的方向⑤について】

- ・「児童・生徒等に対する学校相談体制の充実（具体的取組 84）」について、スクールカウンセラーが全公立中学校に配置されていることは、評価できる。また、スクールカウンセラーによる相談件数のうち教職員からの相談が約4分の3を占めていることから、スクールカウンセラーと教職員との連携が図られ、児童・生徒への的確な指導につながっているものと考えられる。
- ・「暴力行為の発生件数の千人率（指標 34）」について、中学校における暴力行為の発生件数の千人率が全国水準より高い。特に、小学校においては、当該件数の千人率が大幅に増加しており、全国的にも増加傾向にある。低年齢化を防止するためにも、小学校での暴力行為の増加に対応できるスクールカウンセラーの配置など体制強化が必要であり、特に初期対応が重要である。また、小学校1年から6年まで学校全体で組織的に情報共有して取り組んでいくことも重要と考える。平成28年度から特に問題行動等課題の大きい50小学校にスクールカウンセラーの配置等を行い、体制を強化する取組みについて、その効果に期待するとともに、その成果を踏まえて、今後の取組みを考えてほしい。
- ・「いじめの解消率（指標 36）」については、なかなか難しいと思うが、小学校・中学校ともに全国水準を上回っており、着実に対応していると考えている。いじめ解消等への対応については、従来の生徒指導上での対応や心のケアを含め養護教諭等による対応、また、特別支援教育に関連する対応など、これまでは、内容によって、いずれかで対応していることもあると思うが、今後はそれぞれが連携して、児童・生徒への対応・支援にあたって欲しい。
- ・「福祉や警察など関係機関の連携による取組みの推進（具体的取組 85）」について、スクールソーシャルワーカーの存在を周知しつつ、スクールソーシャルワーカーが学校で活躍できるよう研修など人材育成が重要である。特に、福祉や医療制度など市町村ごと様々な手続きや取組みの違いについては、学校の教職員ではなかなか理解しにくい部分もあり、そのサポート役としてスクールソーシャルワーカーの育成に努める必要がある。
- ・いじめや不登校など、大阪の子どもたちやその家庭の実態が厳しい中で、教育庁が努力されていることは評価できる。特に、平成27年度に「生徒指導機能充実緊急支援事業」により人的支援を行ったことにより、中学校の生徒指導が行われやすくなったと、中学校の管理職の方々にとって評価が高いと聞いており、今回「暴力行為の発生件数の千人率（指標 34）」が減少していることから効果も表れてきていると考えられる。今後、人的な支援も含めた取組みが、小学校や高等学校に広がっていくことに期待する。

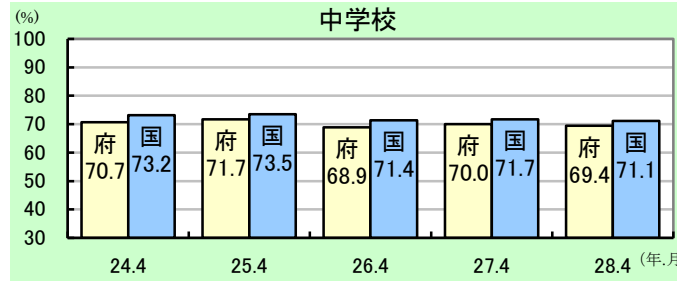
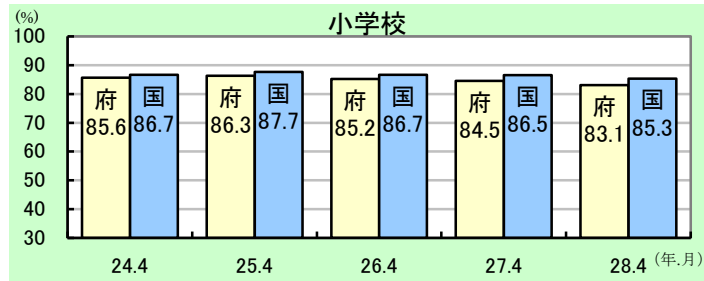
## ○補足意見

## 【基本的方向⑤について】

- ・各学校では、スクールカウンセラーの紹介を学校便り等で行っているが、一部、保護者に活動内容が知られていない。中学校区での活用であれば中学校に配置されている状況を知らせる必要がある。

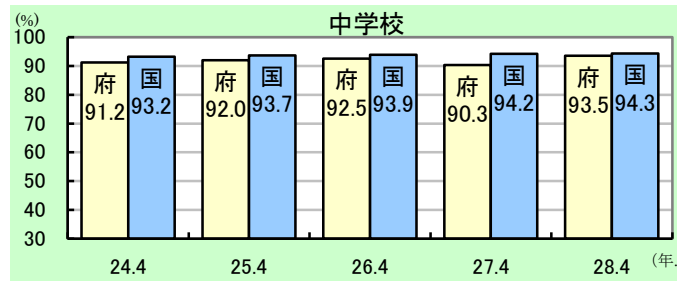
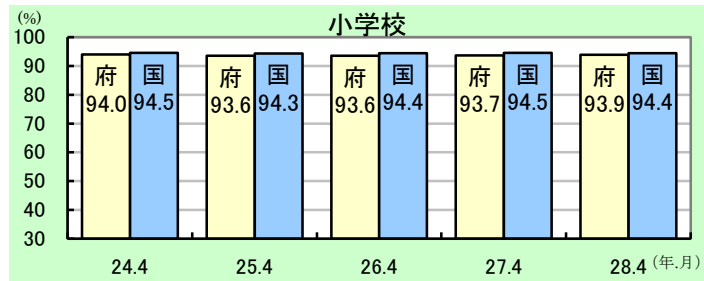
(参考)

◆指標 24 「将来の夢や目標を持っている」児童・生徒の割合



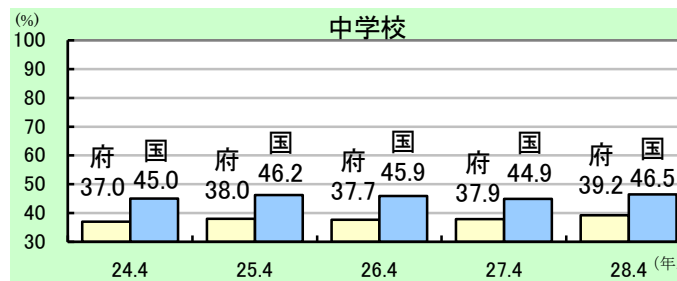
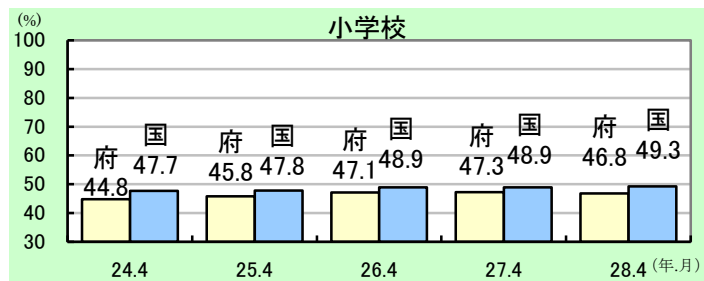
H24年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む抽出調査)  
H25～28年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 25 「ものごとを最後までやりとげたことがある」児童・生徒の割合



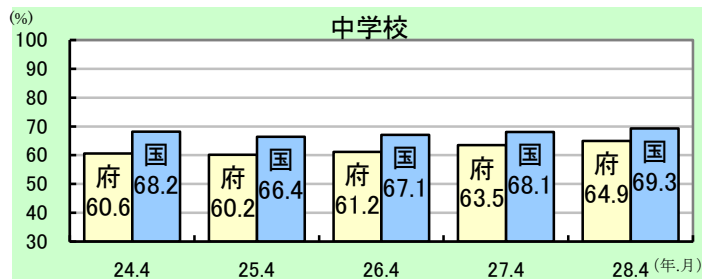
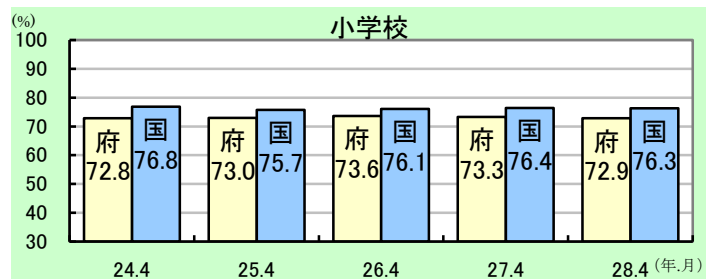
H24年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む抽出調査)  
H25～28年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 26 「読書が好き」な児童・生徒の割合



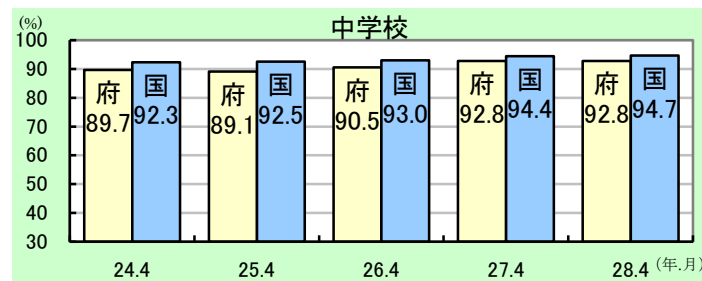
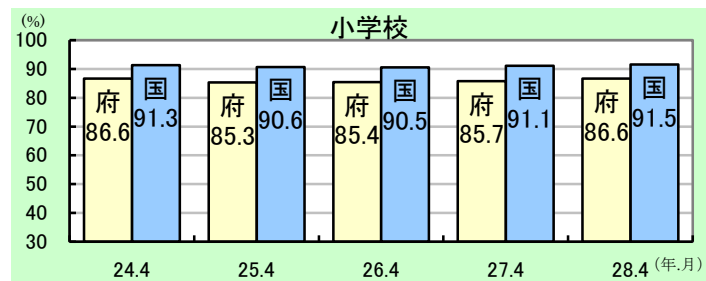
H24年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む抽出調査)  
H25～28年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 27 「自分には良いところがある」と回答した児童・生徒の割合



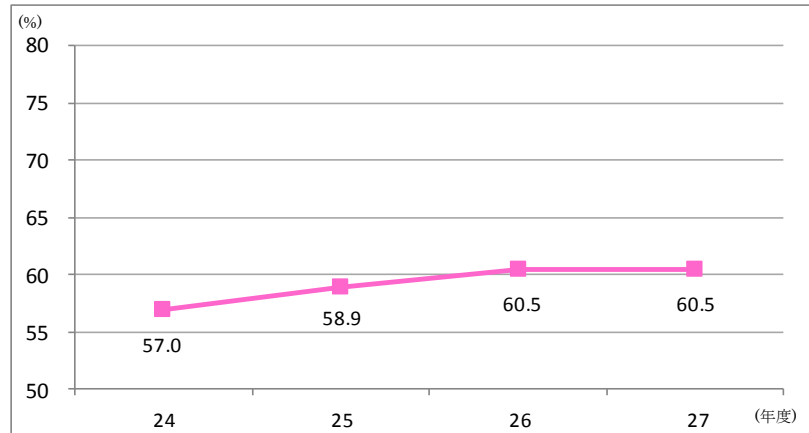
H24年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む抽出調査)  
H25～28年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 29 「学校のきまりを守っている」児童・生徒の割合



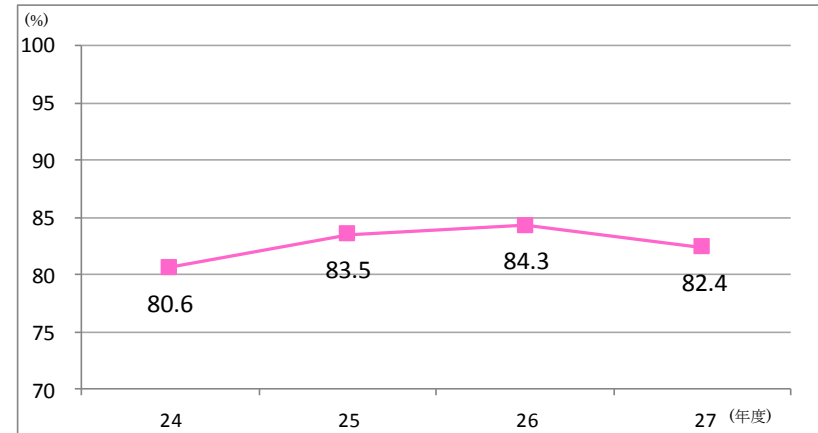
H24年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む抽出調査)  
H25～28年 文部科学省「全国学力・学習状況調査」  
(政令市を含む悉皆調査)

◆指標 31 「高校・高等部での学習を通して『自分を大切にする』気持ちが高まった」と回答した府立学校生の割合



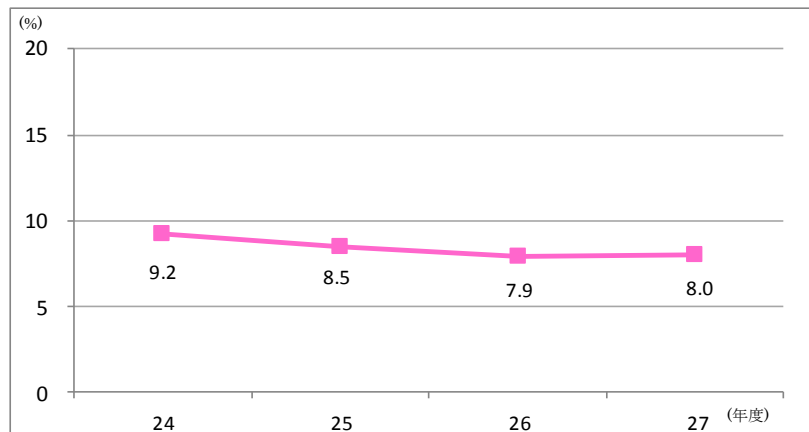
※府教育庁調べ

◆指標 32 「高校・高等部での学習を通して『人間関係』の大切さを学んだ」と回答した府立学校生の割合



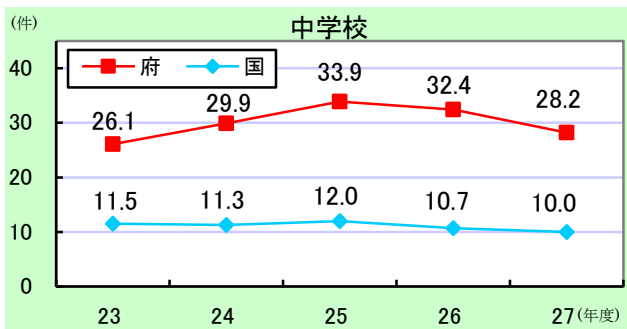
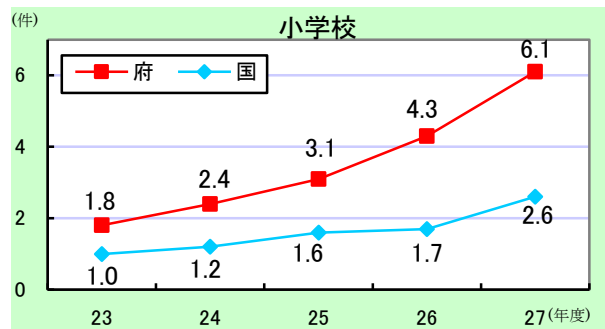
※府教育庁調べ

◆指標 33 「悩みや心配ごとがあるとき、相談する相手がいない」と回答した府立学校生の割合



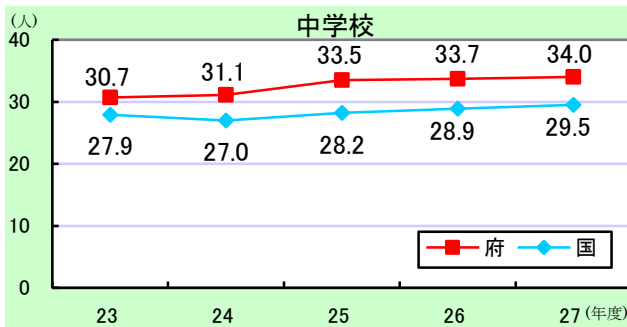
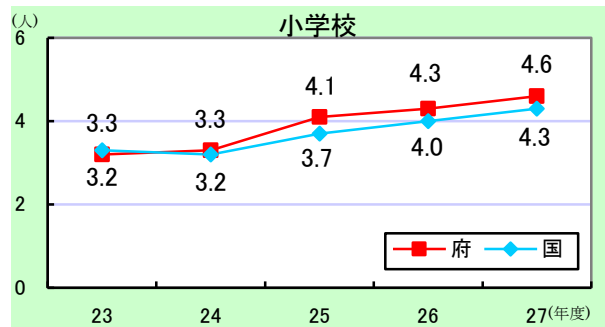
※府教育庁調べ

◆指標 34 暴力行為の発生件数の千人率



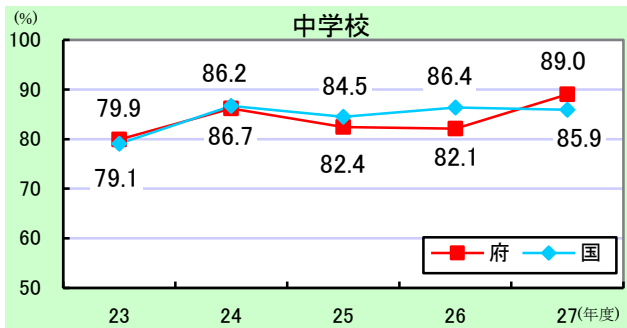
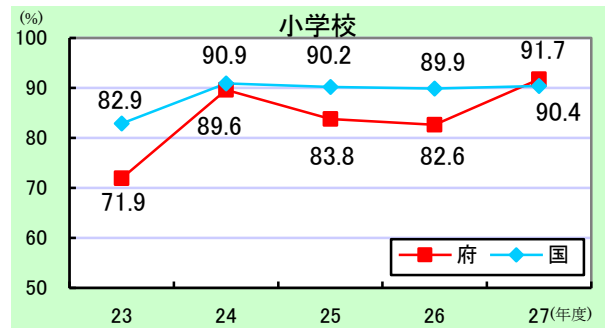
※文部科学省  
「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

◆指標 35 不登校児童・生徒数の千人率



※文部科学省  
「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」

◆指標 36 いじめの解消率



※文部科学省  
「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」